

12月4日～10日は

人権週間です

差別のない
明るい社会を築くために

世界人権宣言が1948年12月10日の国連総会で採択されたことを記念して、日本では1949年から毎年12月10日を最終日とする1週間（12月4日から10日まで）を「人権週間」と決めました。

また、日本国憲法では「すべての国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」（第14条）と法の下に平等をうたっています。

しかしながら、いまだに、同和問題やいじめ、虐待、外国人や障がいのある人などに対する偏見や差別などが根強く残っています。さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染者やそ

の家族、医療従事者等に対する偏見や差別、またSNS上で他人を誹謗中傷したり、個人の名誉毀損やプライバシーの侵害、あるいは差別を助長する有害な情報の発信など、依然として人権問題は後を絶ちません。

人権が尊重され、一人ひとりが住みよい社会を実現するためには、「無関心」「無理解」であつてはなりません。人権問題について認識を深め、「お互いの個性を認める」豊かな心を持ち、一人ひとりが自分自身の問題として考え、真剣に取り組んでいくことが大切です。

市では、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが幸せに、そして人間らしく生きられる社会を実現するための取り組みを行っていきます。



人権問題に関するビデオ・DVDや視聴覚機材の貸し出し

市民・人権同和対策課では、無料で人権問題に関するビデオやDVDおよび視聴覚機材の貸し出しをしています。グループやご家庭での学習に活用し、人権感覚を高めましょう。

申し込み・問い合わせ 市民・人権同和対策課（TEL 25 - 2105）

人権標語と作文

市内の小・中学校の児童・生徒から、人権についての標語と作文を募集しました。今年は、標語80点、作文15点の応募の中から次のとおり入選作が決まりました。児童・生徒が自分自身の心にある「人権」についてありのまま表現したものです。これらの標語は、市内の小・中学校と公共の施設、合わせて25ヶ所に啓発標語看板として、12月から二ヶ月間掲示します。

令和二年度 人権標語

笑顔にね
なればみんなが いい気分

直方東小6年 向城詩音

人間は
それぞれちがう それでいい

感田小6年 稲崎爽彩

あつて良い「個性」の違い
あつてはならない「人権」の違い

上頓野小5年 村上東和

ありがとう
言える人つて カッコいい

直方南小6年 野田紗慈

これからの
未来はともに 手をつなごう

福地小6年 藤原愛成

大丈夫

声かけようね 愛言葉
新入小6年 佐々木彩羽

考えよう

いじめてる時の きみの顔
直方西小6年 古賀藍斗

やさしさは

世界をすくう 気持ちだよ
下境小6年 戸島千凜

大事にしたい

たったひとつの ぼくの命
直方北小6年 田野進

笑いあい

その笑顔で 花が咲く
植木小6年 田中美香

人権は

えがおのために あるんだよ
中泉小6年 藤田皓一郎

向き合おう

見て見ぬふりは もうするな
直方一中3年 西村美樂

やさしさで

つながる広がる 笑顔の輪
直方二中2年 梅井一星

やさしさで

縮める心の ディスタンス
直方三中3年 守田満喜

友達

優しさに気づく 君の優しさ
植木中1年 中井陽心

その声が

いじめをなくす カギとなる
直方東小6年 吉岡潮音

あなたには

きずつく言葉が 見えますか
直方南小5年 徳永麻彩

気づこうよ

端っこ一人で いる人に
福地小5年 藤井創志

人はみな

絶対誰かの 宝物
下境小6年 山下柚夏

ありがとう

君の言葉で ふみだす一歩
直方北小6年 花木彰樹

そのことば

自分に向けて 言えますか
直方一中1年 有田祝

考えて

その一言の その先を
直方一中1年 田中萼果

ありがとう

その一言を 大切に
直方二中1年 吉野彩怜

かわろうよ

人より先に 自分から
直方二中3年 春本校咲

認め合おう

十人十色の 個性たち
直方三中3年 池田彩音

権文 人作

らしくいなさい

植木中学校 三年 山内 彩綾

人が社会の中で生きていくなかで必ず一度は聞く言葉があります。「らしく」です。

私自身も何度か言われたことがあります。「中学生らしくいなさい」こう言われたとき、私はモヤモヤ感と一つの疑問を持ちました。それは「中学生らしく」とは何かです。

ある人は「勉学に励むこと」と言いました。またある人は「三年間を精一杯楽しむこと」と言いました。中学生の印象は人によって様々だということが分かります。

しかし、正解はありません。正解などあるはずがないのです。なぜなら誰も、その答えに行きつけなかったからです。

誰もが持つ印象なのに誰も正解を知らない。それなのに、自分が言っている言葉や勝手な決めつけ、印象がまるで正解のように大人は子どもに言いきかせています。

これは多様性が求められる現代社会の今でも続いていることなのです。昔はもっと意識的に言っていたかも知れません。しかし、今は無意識に誰もが何気なく口にしています。

現在、このようなことが様々な問題になっています。例えば「女性らしく」と言われれば、女性は働かずに家で家事をするべきという考えがあります。また「男性らしく」と言われれば、髪は短くして働きに出てお金を家に入れることが大事だと言われたりもします。

しかし、このような偏った考えから差別的に扱われ、心も身体も傷つきトラウマを持ってしまった人がたくさんいます。

傷ついてしまった人も傷つけてしまった人も本当はいてはならないのです。傷つけて得をする人はいません。傷ついて喜ぶ人はいません。皆、それを分かっているのにまだ、社会には偏った考えがはびこっているのです。

私が大人になる頃は誰もが「自分らしく」生きていける社会になるよう願いを込めて、私の思いをこの作文に託します。